

ムッチョム岳遭難(2021年11月)

男性単独。下山でピンクテープを見失うもほぼ日没となり、そのまま道のない斜面を下山し崖の上に出る。万事休すとあきらめ警察に救助を求め事なきを得た。



解説

①前日まで登山するつもりは無い。②屋久島には一泊二日で滞在し、帰りのフライトの時間は19:00。
③登山はほぼ初心者。④地図は持参せず、案内板を写メ。⑤昼食・行動食を携行せず水は1ℓ持参。
⑥登山道は急坂、木で滑りやすく、足元が悪い。(帰り道の沢は急な豪雨で膝までの濁流)⑦山頂では脚が疲労でかなり辛い状態。⑧下山途中、ハンガーノックの症状が出て足が震える。⑨レンタルバイクの返却時間を考えるとフライトに間に合わない可能性が出てくるため、焦りが生まれる。ペースを上げて下山再開。⑩標高400m付近で辺りが暗くなる。⑪17:15頃ピンクテープをロスト。⑫最後のピンクテープまで戻るが暗くなりピンクテープが見つからない。⑬ヘッドライトは持っていない。⑭5~10m尻で滑るように滑落。⑮GoogleMapで現在地点を確認したが、駐車場まですぐ近くだったため、そのまま下に滑り降りるように下山開始。⑯崖の上に出て下ることができない。⑰警察に救助を求める。

そもそも、ムッチョム岳の登山道は木の根や岩等で道が分かりにくいようだ。加えて、道迷いの条件がすべて当てはまるような事例であり、肝に銘じたい。